

人と人、内と外を繋ぐ憩いの場

球磨村に設ける地域内外多目的交流拠点

熊本高等専門学校_本科1年_板東和寿

01 球磨村について
About Kuma village

02 現状分析
Status quo analysis

03 解決策
Solution

04 具体的な手段
Specific Measures

05 まとめ
Conclusion

01 球磨村について

About Kuma village

▶ 熊本県南部に位置する村。日本三大急流の球磨川があったり、川や村の九割が山林であったりと、自然が多いことが特徴。

面積 : 207.58km²

人口 : 3013人

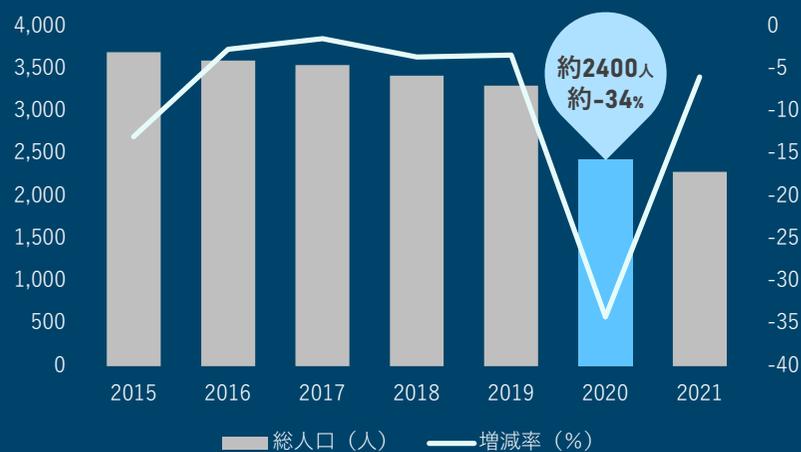
世帯数 : 1297世帯

※ 球磨村ホームページより



02 現状分析 Status quo analysis

1. 球磨村の人口とその増減率



現状分析からわかること①

- 2015年から2019年を見ても、なだらかに人口減少が起きていた。2015年:3698名から2019年:3307名5年間で391名の減少。
- 2020年の豪雨災害によって人口が2433名となり864名（34%減）の人口減少が発生している。



※熊本県推計人口調査結果報告(2015年版～2021年版)から球磨村の人口を抜粋し作表した。

2021年版URL

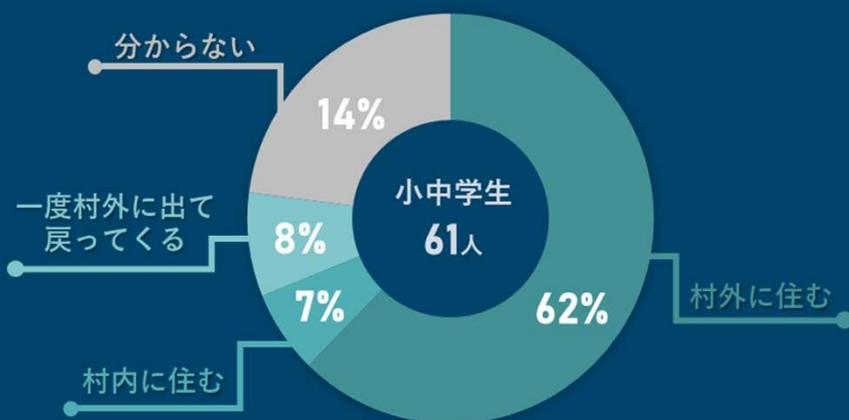
<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/20/120389.html>

豪雨災害前から人口減少は起きていたが、豪雨災害が人口減少に拍車をかけている

02 現状分析

Status quo analysis

2. 将来どこに住むか



独自オンラインアンケート1
(球磨村在住小学6年生～中学3年生)

- 球磨村にいる小学6年生
渡小学校・一勝地小学校：合計15名
- 球磨村にいる中学生(1～3年生)
球磨中学校：合計46名

現状分析からわかること②

- 球磨村在住の小学6年生～中学3年生にオンラインアンケートをとったところ、62%が「将来、村外に住む」と回答。
- 将来村内に住むことを想定している児童・生徒は7% (61名中4名)

- 村内に住むことを明確に想定している小中学生は61名中わずか4名 (小学6年～中学3年)
- 今後更なる若年層の減少が予想される。

02 現状分析 Status quo analysis

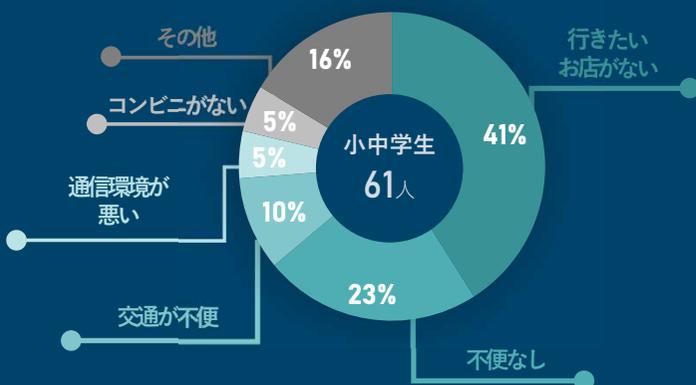
独自オンラインアンケート2

(球磨村在住小学6年生、中学1~3年生)
自由回答結果を(行きたいお店がない、不便なし、交通が不便、通信環境が悪い、コンビニがない、その他)の6つに分類。

独自オンラインアンケート3

(球磨村在住小学6年生、中学1~3年生)
自由回答結果を(お店、ショッピングモール、スーパーマーケット、人が集まる観光エリア、コンビニ、その他)の6つに分類。

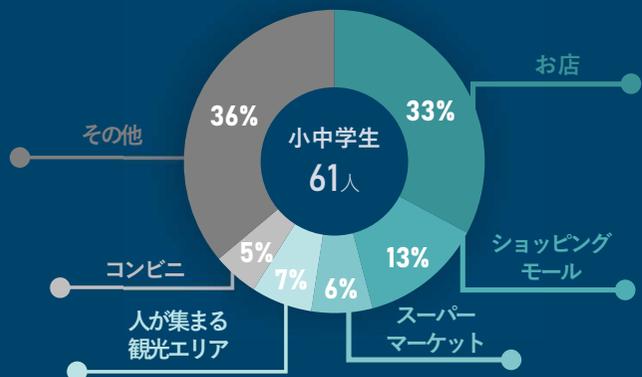
3.球磨村で生活していて不便なこと



現状分析からわかること③

- 「行きたいお店がない」に分類された回答が25件(41%)
- 「不便なし」に分類された回答が14件 (23%)
- 件数は少ないが「災害に弱い」、「遊ぶ場所が少ない」がある。

4.球磨村にあったら良いと思うもの



現状分析からわかること④

- 「お店」に分類された回答が20件(33%)
- 「ショッピングモール」に分類された回答が8件 (13%)
- 件数は少ないが「カフェ」、「防災拠点」がある。

- 球磨村の小中学生は、ショッピングモールのような多くの人が集まり、友達と遊びに行けるお店を求めていることがわかる。

- 一方で、「図書館」、「防災拠点」、「カフェ」等の回答もあり、豊かさを求める声も拾えた。

02 現状分析 Status quo analysis

2022/8/16 神瀬地区住民への被災状況並びに
今後の復刻に関するヒアリング（6名）結果のまとめ

村民の声

球磨村の好きなおとこ

- 森、川などの自然
- 人との繋がりが身近に感じられること。

被災時の状況

- 住民同士が協力しあって避難をおこなった。
（住民がみんな顔見知り、つながりがあること。）
- 水害により飲み水足りなくなった。
- 必要なものが時間と共に変わった。
情報・飲水→電気・電池→ガソリン

復旧時の状況

- ボランティアが県内限定だったが、
多くの人手が欲しかった。人手が全然足りなかった。

地域に足りないもの、欲しいもの

- 今後も同じ災害は発生するのでまずは避難所。
避難所を多目的なみんなの家のようにしたい。
- まずは人が集まらなければ始まらない。
（住民の流出が深刻）
- 復興は速さ優先で行わないと、人口流出が加速する。
- 高齢者の移動手段
（車を運転できなくなると生活ができない）
- 女性も男性も働ける場所
- パソコンだけでできる仕事などができる環境
- 山や木などの自然を使った仕事
- 若者（球磨村に移住者が来ることは大歓迎）

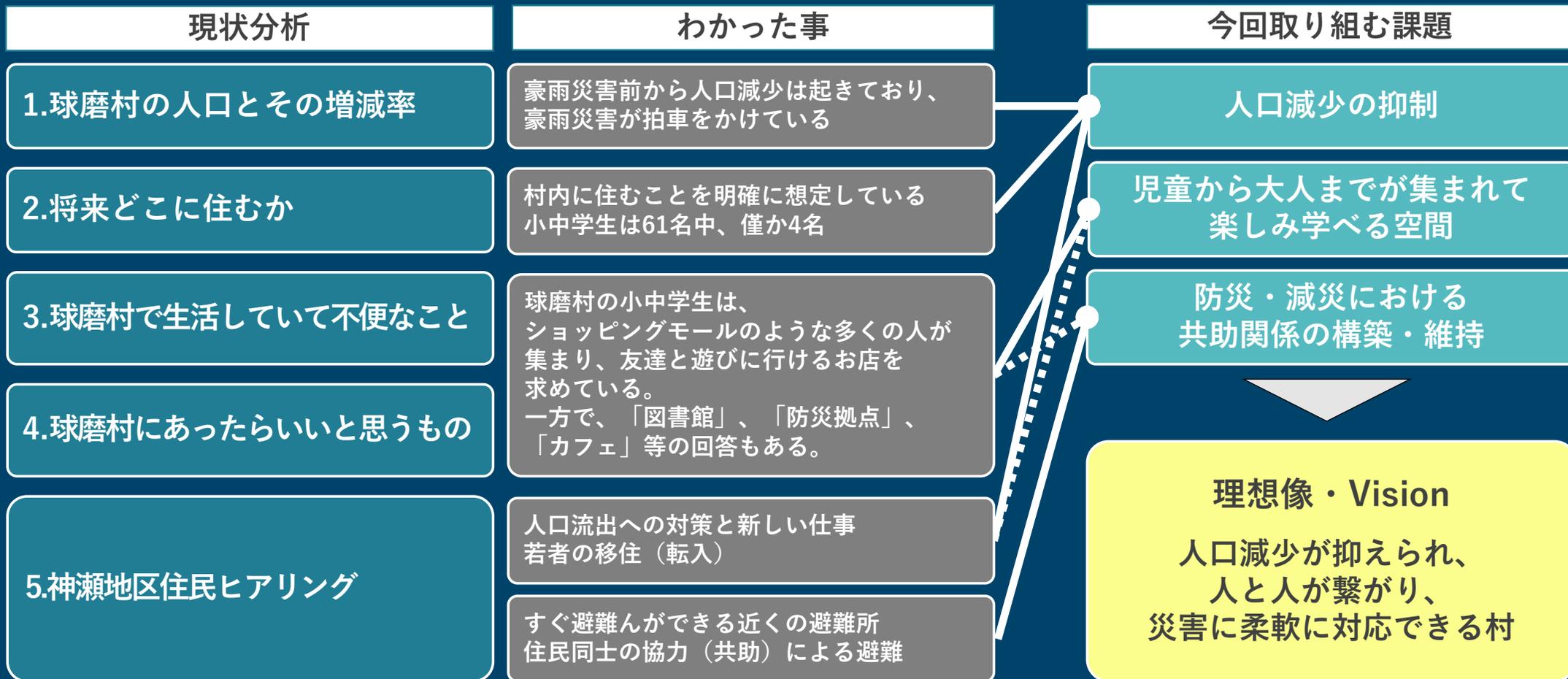
人口流出への対応と新しい仕事
若者の移住（転入）

すぐ避難ができる近くの避難所
住民同士の協力（共助）による避難

02 現状分析と課題

Status quo analysis

現状分析まとめ



03 解決策 Solution

本提案では、「地域内外多目的交流拠点」の整備事業を基に、**多様な人々が集まれて楽しみ学べる空間**を作ること、球磨村の人口減少対策、並びに防災・減災における共助関係の構築と維持の実現を目指す。

地域内外
多目的交流拠点

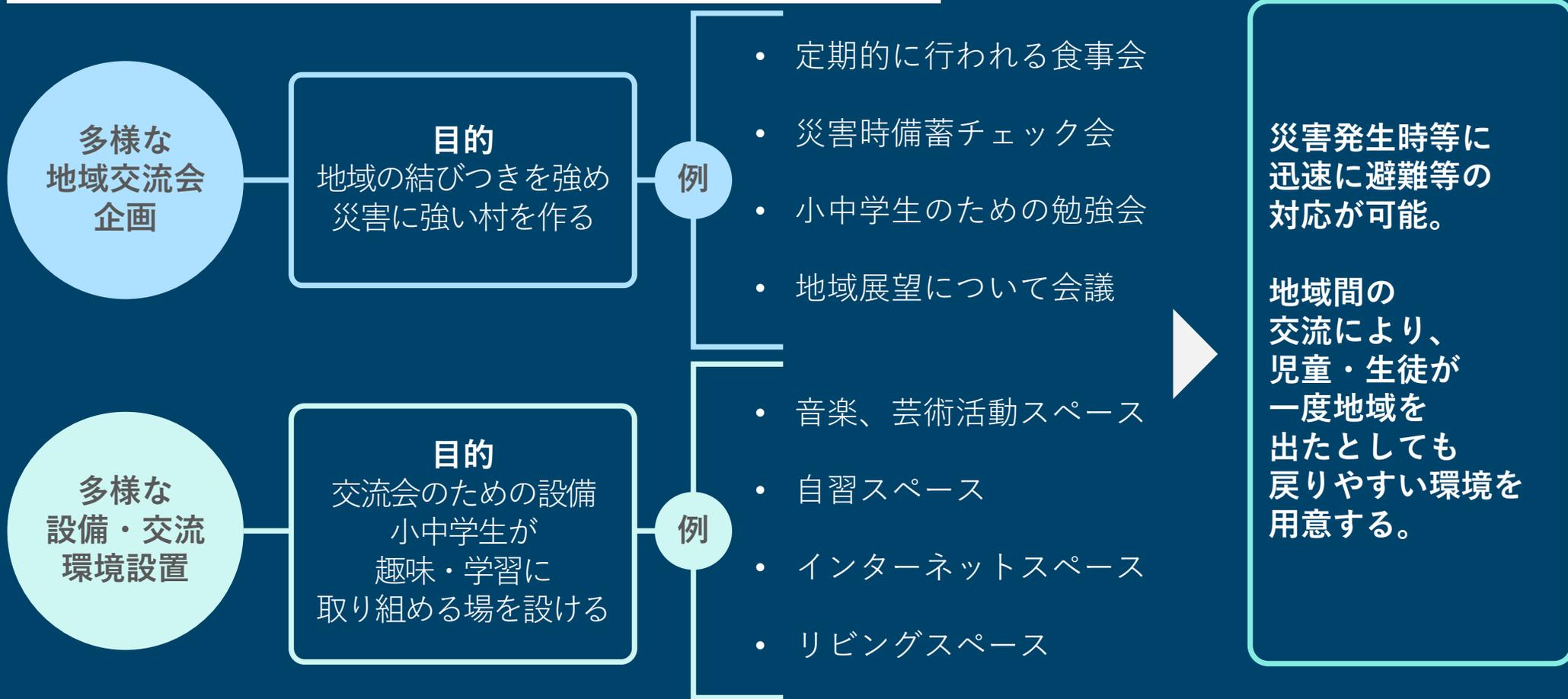
児童から
大人までが
集まれて
楽しみ学べる
空間

人口減少対策

防災・減災における
共助関係の構築と維持

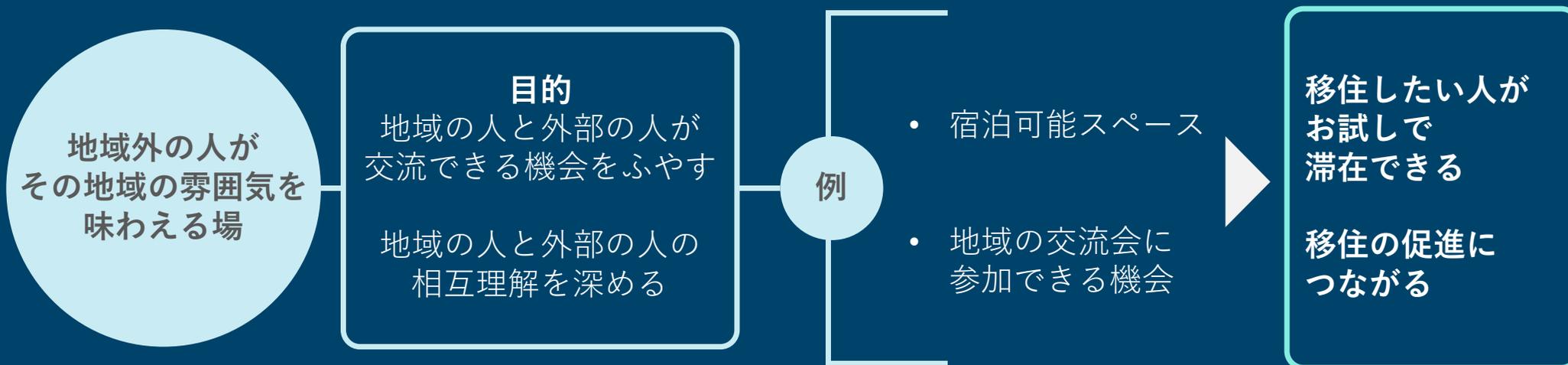
03 解決策 Solution

解決策1：多目的交流拠点で行われる**地域内**交流について



03 解決策 Solution

解決策2：多目的交流拠点で行われる**地域外**交流について



04 具体的な手段 Specific Measures

三段階フェーズ

交流拠点
実現可能性
検証フェーズ

交流拠点
準備フェーズ

交流拠点
建築・運用フェーズ

04 具体的な手段 Specific Measures

交流拠点 実現可能性 検証フェーズ

目的
多目的交流拠点
における交流活動の
実現性調査

地域を楽しむワークショップ

- 学びと遊びを軸に地域内でできることの検討
- リモート技術を活用した地域外との交流の検討

地域住民と地域外の人との交流イベント

- 地域外の人が、球磨村の良さ、必要となる協力関係を理解できるかの検討

音楽・芸術に関わる地域交流イベント

- 音楽・芸術関係の設備が必要かの確認

04 具体的な手段 Specific Measures



目的
多目的交流拠点
建設に向けた準備

1. 多目的交流拠点の建設に向けた設備仕様の検討

2. 地域交流会を特定し、実験的に開催

3. 交流拠点建設並びに交流会実施に伴う効果より費用対効果を調査

4. 費用対効果をもとに建設、交流会実施の検討及び判断

04 具体的な手段 Specific Measures



目的
多目的交流拠点の
建設並びに
地域交流会の
開始と運営



05 まとめ

Conclusion

理想像・Vision

人口減少が抑えられ、人と人が繋がり、災害に柔軟に対応できる村

地域内外多目的拠点を
ベースとした人の交流

多様な
地域交流会
企画

多様な
設備・交流
環境設置

地域外の人
がその地域の
雰囲気
を味わえる場

人口減少対策

多様な人々が集まれて
楽しみ学べる空間

災害時における
共助関係の構築と維持